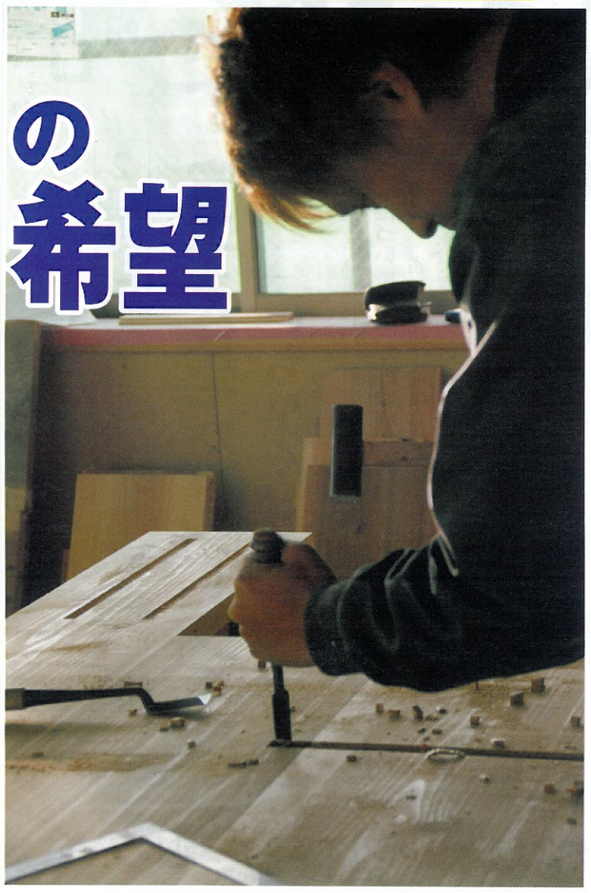
大工育成塾・塾生に聞く

の希望



海外の貧しい国の住宅を造りたい

寺内小鉄さん（19）
大工育成塾1年

この時代、サラリーマンの家庭に生まれながら大工職人を目指すというケースはめったにない。寺内小鉄（19）のきっかけはテレビ番組の『プロフェッショナル』で紹介していた建築大工に感化されたこと。「努力を重ねて工夫しモノを創り上げる、って最高の喜びじゃないですか」と寺内は屈託なくいう。

修行の道に入ったのは家族の支えも大きい。「木造の大工は人の役に立てる立派な仕事だから、死ぬ気でやってみろ」という会社員の父の言葉に後押しされ昨年4月に大工育成塾に入塾した。

大工育成塾では、教室で行われる座学で伝統木造建築の技能と技術の基本から学び、あわせて伝統工法の指導を受ける「受入工務店」として森の恵（神奈川県）の作業場や建築現場で週6日、大工道具の使い方や手入れの仕事、伝統構法の継ぎ手や仕口などの実技の指導を受けながら修行の日々を送っている。

「（現場の）先輩達の鉋の砥ぎ方は上手くてその切れ味にびっくりするほど。上手く砥げて、きれいに削れると嬉しくて仕方ない」という寺内。鉋の刃金の良し悪しにも関心が高く、新たに高級鉋の購入を検討しているほど。

休日を利用して友達の家に遊びにいき、家族のために濡れ縁を徹夜作業で仕上げたという根っからの木工好きだ。現場の木工作業は「（休憩時間になっても）ひと段落つけられなくなるほど楽しい」と嬉しそうに笑う。

自分の将来は「一人前になりお金を貯めることがまず第一。そのお金を使ってアフリカなどの貧しい国の家をボランティアで造りたいと本気で考えている」という野望の持ち主。そんな寺内にも不安はある。「刻み作業でなければできない建築があるから『手に職をつけたい』と考えたが、この先、仕事が減るとどうなるか心配」というもの。野望実現の日が来ることを期待したい。

真剣な表情で作業をする寺内さん

「一期一会」の気持ち生かす

藤井義寛さん（27）
大工育成塾3年

12月下旬の東京下町。寒波で身も心も凍るほどの屋外作業場で大工育成塾3年と1年の二人の塾生が親方の指導のもと、黙々と伝統構法の継ぎ手と仕口の加工に打ち込んでいた。場所は受入工務店である山口工務店（東京都）の南千住の作業現場。二人は3年生の藤井義寛（27）と1年生の佐久間美来（18）。

屋外で刻み作業に打ち込む藤井さんと佐久間さん

藤井は、青森県から高校卒業後に上京。建築業を営む親戚の会社で事務を手伝っていたが、伝統構法の建築を学びたい一心で3年前に大工育成塾への入塾を決めた。

大工職人を目指すきっかけは「手刻みによる宮大工の造作の凄さに感動した」こと。そして「その技術の深さを自分で見極めたい」と考えた。いずれは事務所を持ち新築住宅を手掛け「心から喜んでもらえる家を造ること」が夢。

親方の下で修行を始めて3年目。「親方は材木をみて『この材はココ、この材はココ』と墨付けの指示をくれる。墨のとおりピタッと合う材に加工できた時は本当に嬉しい」という。そしていまだに「親方は凄いな」と感じることが多い。

「例えば、家づくりの中で結構難しい造作の要望がお客さんから出たとすると、親方はその場でいとも簡単にフリーハンドでサッサッと絵に描いて見せ、その絵のとおりに作ってしまう。俺もそんな職人になりたい」

さらに「将来に不安はないといったら嘘。このまま伝統建築が減っていったら心配」というが、「お金は自分の行いに対してついてくるもの。だから、今は安心して修行に打ち込むだけ」と、すでに腹は据わっている。

好きな言葉は「一期一会」。「どんなに厳しい時でも出会いを大切にすると乗り越える力になる」という母親の教えだという。家族思いの藤井の家づくりが楽しみだ。

「意志あるところに道あり」

佐久間美来さん（18）
大工育成塾1年

佐久間は、両親が工務店を経営している関係で、小さなころから現場で大工職人を見て育った。「大工さんがバンバン仕事をしていく姿が格好よくて、現場に連れていくよう親にせがんでいた」という。

高校卒業にあたって大工を希望していることを親に話したら「本気で大工職人になるには相当厳しい環境が必要。甘えが出るから親の会社での修行は無理だ」といわれ、高校の担任の紹介で大工育成塾を知り志望した。

塾生の約半数が3年間で脱落するという大工修行の厳しさはすでに実感している。「修行は辛いが、何年か後やってきてよかった思える時が来るはず。親方のようにお客様のどんな要求にも応えられ、かつ、それ以上のものを作る」が目標。

ただ「本当にできるようになるかは不安。技能の奥深さを知りながら、一つひとつ自分のモノにしていくしかない」とこちらも腹が据わっている。

好きな言葉は『意志あるところに道あり』で、「強い意志を持っていれば、いつかは成し遂げられる、と信ずる今の自分にピッタリな言葉」という。「大人達を見ていて、口で上手い事を言う人に限って実行が伴わない。自分の意志を貫きとおしている人を見ると、輝いているな、と感じる。大工としても人間としても尊敬できる親方に教えて貰えることに感謝している」という。情熱と謙虚さ、感謝の気持ちを忘れない佐久間に期待。